

口第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

| 目標                | 施策の基本方針            | 《―》数値指標なし        |                        |                    |                     |                  |                    | 評価<br>(《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成) | 対応する予算事業 |   |  |   |
|-------------------|--------------------|------------------|------------------------|--------------------|---------------------|------------------|--------------------|--------------------------------|----------|---|--|---|
|                   |                    | 具体的な振興施策         |                        | 指標                 | 2017年度<br>(2016実績値) | 2027年度<br>(目標値)  | 2018年度<br>(平成30年度) |                                |          | 2019年度<br>(令和元年度)   |  |   |
| 農業の未来を託せる人づくり     | 1 未来につながる多様な担い手づくり | 施策1<br>担い手の育成・確保 |                        | ①認定農業者の維持(育成)並びに確保 | 認定農業者数              | 126              | 126                | 119                            | 119      | 《△》<br>離農等で認定農業者から外れた農業者があったものの、新規で農業経営改善計画を認定し、地域の担い手である認定農業者となった者もあった。  | 担い手支援事業  |   |
|                   |                    |                  |                        | ②新規就農者の確保          | 認定新規就農者数            | 4                | 21                 | 8                              | 9        | 《○》<br>新規就農者の確保をすべく、就農しやすい環境づくりを推進した。また、JA伊勢や三重県とともに就農希望者に対して経営面や技術面での情報提供を行った。さらに、農業・農村に対する理解を深めるため、地元農業者や教育関係者などと一体となり、将来の担い手となり得る子供たちに対し農業体験を実施した。 | 伊勢のいちご産地強化事業<br>担い手支援事業<br>農業体験学習事業  |   |
|                   |                    |                  |                        | ③新規就農者育成の取り組みを支援   | —                   | —                | —                  | —                              | —        | 《○》<br>関係機関等で行う新規就農者の育成事業に対して支援を行った。  | 伊勢のいちご産地強化事業   |   |
|                   |                    |                  |                        | ④多様な農業の担い手を支援      | —                   | —                | —                  | —                              | —        | 《○》<br>関係機関と連携し、女性農業者の農業経営への参画を推進した。また、JA伊勢が運営する市民農園の募集等を行い、多様な農業のニーズへの対応を行った。  | 農業振興事業<br>伊勢のいちご産地強化事業   |   |
|                   |                    | 施策2              | 農業の共同化、法人化の推進          | ①集落の営農の組織化を推進      | 集落営農組織化、農業経営法人化件数   | 5                | 10                 | 8                              | 8        | 《△》<br>令和元年度における集落営農の組織化の実績は無いが、人・農地プランや中間管理事業の説明会等において、組織化の説明を行うことで集落営農の組織化を推進した。  | 農地中間管理事業   |   |
|                   |                    |                  |                        | ②農業経営の法人化を推進       |                     | —                | —                  | —                              | —        | —   | 《△》<br>令和元年度における法人化の実績は無いが、集落営農の組織化の説明に併せて、その後の目標として法人化の説明を行うことで農業経営の法人化を推進した。   | —   |
|                   |                    | 自慢できる農作物づくり      | 2 地域の特性に応じた農業生産システムづくり | 施策3<br>経営安定対策の充実   |                     | ①水田農業経営の安定       | —                  | —                              | —        | —   | 《○》<br>国の米政策において、平成30年度より、国・県からの主食用米の生産数量目標の配分は無くなった。しかし、主食用米の過剰生産は米価の下落により農業経営の悪化を引き起こすおそれがあるため、国の制度「経営所得安定対策」において転作の奨励を行った結果、国・県から示された主食用米の生産量の目安61.4%（転作率38.6%）を達成した。 | 経営所得安定対策推進事業  |
|                   |                    |                  |                        |                    |                     | ②所得安定に向けた助成制度の活用 | —                  | —                              | —        | —   | —  | 《○》<br>水田フル活用ビジョンの2020年度の作付目標及び単収目標が達成できるように産地交付金を活用し、小麦の作付や大豆二毛作等に対して支援を行った。 |
| ③金融制度を活用した経営改善の支援 | —                  |                  |                        |                    |                     | —                | —                  | —                              | —        | 《○》<br>担い手の機械・施設等の導入や更新の際に利用した農業近代化資金、農業経営基盤強化資金の利子補給を行い、農業者の負担軽減を図った。  | 担い手支援事業  |   |

口第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について  
【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

| 目標          | 施策の基本方針                | 具体的な振興施策           | 《―》数値指標なし           |                     |                 |                    | 2019年度<br>(令和元年度) | 評価<br>(《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)  | 対応する予算事業                                |
|-------------|------------------------|--------------------|---------------------|---------------------|-----------------|--------------------|-------------------|---|---|
|             |                        |                    | 指標                  | 2017年度<br>(2016実績値) | 2027年度<br>(目標値) | 2018年度<br>(平成30年度) |                   |   |   |
| 自慢できる農作物づくり | 2 地域の特性に応じた農業生産システムづくり | 施策4<br>農産物の産地化     | ①営農指導対策への支援         | —                   | —               | —                  | —                 | 《○》<br>産地交付金において小麦の収量増大に寄与する取り組みに対しての交付金メニューを設定し、支援を行った。<br>また、産地交付金において青ねぎ、いちご、トマト、かぼちゃ、キャベツについて、他の野菜と比較し単価の上乗せを行うことで産地の維持、発展につながるよう支援した。  | 経営所得安定対策推進事業                            |
|             |                        |                    | ②野菜産地の維持・育成         | —                   | —               | —                  | —                 | 《○》<br>新規就農者に対して給付金を交付することで支援を行うとともに、JA伊勢生産者部会に対して新しい機械の導入等を支援し、栽培・出荷体制の強化を図った。<br>また、関係機関等で行う新規就農者の育成事業に対して支援を行った。   | 農産物ブランド化推進事業<br>伊勢のいちご産地強化事業<br>担い手支援事業 |
|             |                        |                    | ③花き産地の維持・育成         | —                   | —               | —                  | —                 | 《○》<br>JA伊勢が行う花き品評会の支援など生産組織の育成を図った。<br>また、市内の小学生児童を対象にJA伊勢が行った、ガーベラ収穫体験の支援を行った。<br>また、国の補助事業を活用し、バラ生産者の施設整備に対して支援を行った。(事業の実施に関しては、市が事務局である伊勢市農業再生協議会の取り組みとして、実施計画の作成及びバラ生産者の申請手続き等の支援を行った) | —                                       |
|             |                        |                    | ④果樹産地の維持・育成         | —                   | —               | —                  | —                 | 《○》<br>生産者へ講習会(座学、実習)を開催し、栽培技術の向上を図った。<br>JA伊勢や生産者とともに地元大学と交流を行い、果樹産地の維持に関する意見交換等を行った。  | —                                       |
|             |                        |                    | ⑤生産性の高い畜産の振興        | —                   | —               | —                  | —                 | 《△》<br>JA伊勢や三重県と協力し、飼料用米の栽培推進やWCS用稲の導入によりJA伊勢管内の飼料自給率の向上を図り、畜産経営の合理化に向け取り組んだ。<br>しかし、飼料用米の栽培により飼料の確保を図ったが、市内の畜産農家との連携には至らなかった。  | 経営所得安定対策推進事業                            |
|             | 3 地域農業を支える生産基盤づくり      | 施策5<br>生産・出荷体制の充実  | ①生産・出荷施設の充実を支援      | —                   | —               | —                  | —                 | 《△》<br>JA伊勢の共同出荷施設等の更新計画が無かったため未実施となったが、JA伊勢と連携を密に取り、適切な時期に共同出荷施設等の更新ができるよう、支援内容の検討を行った。  | —                                       |
|             |                        |                    | ②多様な販路の拡大を支援        | —                   | —               | —                  | —                 | 《○》<br>10月に東京での物産展の実施、11月に神奈川県での市内農水産物のPR、11月に県内の消費者向け販売イベントを実施し、市内農水産物の情報発信を行った。   | 農産物ブランド化推進事業                            |
|             |                        | 施策6<br>農業生産基盤の整備促進 | ①立地状況に応じた生産基盤の整備を推進 | —                   | —               | —                  | —                 | 《○》<br>地元の要望書に基づき、整備を推進した。<br>また、整備の優先順位や工法的等地元と十分協議しながら、より効果的な事業推進に努めた。  | 農道整備事業【市単】<br>農業用排水路整備事業【市単】<br>農道整備事業  |

口第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

| 目標          | 施策の基本方針             | 具体的な振興施策         |                           | 指標                          | 《―》数値指標なし                 |                 |                    |   | 評価<br>(《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)  | 対応する予算事業   |                    |
|-------------|---------------------|------------------|---------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------|--------------------|---|---|--|--------------------|
|             |                     |                  |                           |                             | 2017年度<br>(2016実績値)       | 2027年度<br>(目標値) | 2018年度<br>(平成30年度) | 2019年度<br>(令和元年度)   |   |  |                    |
| 自慢できる農作物づくり | 3 地域農業を支える生産基盤づくり   | 施策6              | 農業生産基盤の整備促進               | ②農業水利施設の整備と農業用水の確保を支援       | —                         | —               | —                  | —   | 《○》<br>国営宮川用水第二期事業関連県営事業について、予算に基づき計画的執行を行い、施工延長が増となった。また、土地改良区等が行う農業用施設の修繕等の費用に対して補助金を支出し支援を行った。農業用ため池について、笹原池の改修工事に向けて実施計画書を作成した。また、県営事業の東池の堤体改修工事及び朝熊頭首工設計に対し、事業費の一部を負担した。 | 土地改良事業補助金<br>県営事業負担金<br>農村地域防災減災事業   |                    |
|             |                     | 施策7              | 優良農地の確保と担い手等への効率的利用促進     | ①遊休農地の把握と防止・解消対策            | 遊休農地の割合                   | 3.19%           | 3.02%              | 3.03%   | 2.97%   | 《○》<br>農業委員会等関係機関と連携し、遊休農地の把握に努めた。また、遊休農地の解消を目的に取り組もうとする農業者との調整を行い、遊休農地面積は対前年度比で0.06%の減少となった。  | 遊休農地活用事業           |
|             |                     |                  |                           | ②優良農地の確保を推進                 | 伊勢市農業振興地域整備計画における農用地面積    | 2,246ha         | 2,231ha            | 2,246ha   | 2,244ha   | 《△》<br>農地の集団性を確保し優良農地の保全に努めたが、農用地区域の面積は対前年度比で約2haの減となった。   | 農業振興地域整備促進経費       |
|             |                     |                  |                           | ③人・農地プランの作成と農地中間管理事業の活用を推進  | 人・農地プランの作成数               | 3地域             | 20地域               | 12地域  | 5地域   | 《○》<br>実質化された人・農地プラン（実質化判断も含む）が、小俣町西新村、小俣町宮前、中須町、上地町、粟野町の5地域で新たに作成された。また、主に粟野町、小俣町湯田で中間管理機構を活用した貸付が進んだ。  | 農業一般経費<br>農地中間管理事業 |
|             |                     | 施策8              | 鳥獣被害対策の推進                 | ①有害鳥獣による農産物被害の減少            | 有害鳥獣の被害額                  | 15,785千円        | 7,210千円以下          | 17,566千円  | 17,728千円  | 《△》<br>伊勢市鳥獣被害防止計画に基づき、農地等に出没する有害鳥獣の捕獲を行い、被害のある地域に対し、防護柵等の資材支援を行った。また、地域が主体となって被害防止策を講じるために必要な研修会を開催し、獣害に強い集落作りに向けての体制整備に取り組んだ。<br>(H30被害面積1,430a、R01被害面積1,424a) | 獣害防止事業             |
|             | 施策9                 | 安全・安心な食料の供給体制の構築 | ①食の安全・安心体制の構築への取り組み       | —                           | —                         | —               | —                  | 《○》<br>WCSやわら利用の取り組みについては、産地交付金にて支援を行った。また、JA伊勢及び各部会の取り組み支援についても各種補助金にて支援できた。また、GAP認証を取得した農業者について、メディアを活用し広く情報発信を行った。 | 経営所得安定対策推進事業  |  |                    |
|             | 4 自慢できる安全・安心な農産物づくり | 施策10             | 地域資源としての農産物のブランド化に向けた取り組み | ①ブランド化の方向性を定め、それに向けた取り組みを支援 | 市内産農産物のブランド化に向けた取り組みへの支援数 | 9件              | 59件                | 15件   | 16件   | 《△》<br>令和元年度においては、1品目しか農産物ブランド化推進補助金の活用がなかった。しかし、JA伊勢や生産者部会等とともに、課題や方向性の検討を行い、情報の共有を行った。   | 農産物ブランド化推進事業       |
|             |                     |                  |                           | ②内外に向けて有効な方法での情報発信          | —                         | —               | —                  | —   | 《○》<br>10月に東京での物産展、11月に神奈川県内の飲食店での食材PR及び県内の消費者向け販売イベントを実施することができた。また、市長訪問等を活用し報道機関を通じて情報の発信を行った。さらに、市内各所に、地産地消の店認定店のチラシを設置することで、地産地消に関する情報発信を行った。                             | 農業振興事業<br>地産地消推進事業   |                    |

口第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

| 目標                   | 施策の基本方針                        | 《―》数値指標なし                     |                           |                      |                               |                 |                    | 評価<br>(《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)   | 対応する予算事業  |   |                        |
|----------------------|--------------------------------|-------------------------------|---------------------------|----------------------|-------------------------------|-----------------|--------------------|--|---|---|------------------------|
|                      |                                | 具体的な振興施策                      |                           | 指標                   | 2017年度<br>(2016実績値)           | 2027年度<br>(目標値) | 2018年度<br>(平成30年度) |  |   | 2019年度<br>(令和元年度)   |                        |
| 自慢できる農作物づくり          | 4 自慢できる安全・安心な農産物づくり            | 施策10                          | 地域資源としての農産物のブランド化に向けた取り組み | ③6次産業化など農産物の加工品開発を推進 | —                             | —               | —                  | —  | 《△》<br>6次産業化補助金を活用した支援を行うことはできなかったが、各生産部会等と情報の収集や課題の検討を行った。                 | 6次産業化推進事業   |                        |
|                      |                                | 施策11                          | 地産地消の推進                   | ①地産地消をさらに推進          | 学校給食への地場農産物の提供回数              | 2回              | 6回                 | 8回※1<br>(12回※2)<br>※1単独自校方式<br>※2共同調理場方式   | 4回  | 《△》<br>市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行ったが、実施回数については昨年度より減となった。<br>・実施回数内訳：いちご1回、柿1回、青ねぎ2回                 | 地産地消推進事業               |
|                      |                                |                               |                           | ②農産物の直売活動の充実         | 民話の駅蘇民・郷の恵「風輪」・サンファームおばたの来客者数 | 257,000人        | 295,000人           | 206,585人   | 200,991人  | 《×》<br>天候不順や生産者の高齢化等により農産物の出荷が少なく、利用者（レジ通過者）は減少してしましたが、各産直施設でイベントを開催し、より多くの方が交流できる機会を設け施設の有効活用を図った。 | 地産地消推進事業<br>産直施設維持管理経費 |
|                      |                                |                               |                           | ③市内産農産物の地元への流通を促進    | —                             | —               | —                  | —  | —   | 《○》<br>地元の農業者が市内農産物直売施設に農産物を出荷できるよう、関係機関と連携して推進を図った。  | —                      |
| 施策12                 | 食育の推進                          | ①農業体験や市内産農産物の学校給食への使用による食育の推進 | 農業体験学習実施校数                | 11校                  | 18校                           | 15校             | 19校                | 《○》<br>市内小学校に対して、農業体験（水稻、青ねぎ、蓮台寺柿、横輪いも）の機会を積極的に提供し、自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について理解が深まるよう取組を行った。<br>市内小中学校の、市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行った。 | 農業体験学習事業<br>地産地消推進事業  |   |                        |
| 自然と共存できる魅力ある農業・農村づくり | 5 地域資源を活用し地域が一体となった魅力ある農村環境づくり | 施策13                          | 地域資源と農村コミュニティの適切な保全       | ①地域資源を活かした多彩な交流の場を提供 | —                             | —               | —                  | —  | 《○》<br>音無山の照明灯改修手や絆の森の案内看板の維持補修を行った。また音無山、三郷山等の間伐や適切な管理を行い、交流・ふれあいの場を提供をした。 | 環境保全林管理経費<br>環境保全林整備事業<br>環境保全林整備事業（自然環境整備交付金）  |                        |
|                      |                                |                               |                           | ②祭り・伝統行事等継承への取り組みを支援 | —                             | —               | —                  | —  | —   | 《△》<br>農業に由来する祭り・行事等の継承活動の調査・聞き取りを行い、今後の支援策を検討した。   | —                      |
|                      |                                | 施策14                          | 多面的機能支払交付活動               | ①共同活動への支援            | 多面的機能支払交付金活動組織化数              | 26              | 30                 | 28   | 26  | 《△》<br>26組織に対し共同活動への支援を行った。<br>しかし、前年度と比較して2組織減少した。   | 多面的機能支払交付金事業           |

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について  
【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

| 目標                   | 施策の基本方針                        | 《―》数値指標なし             |                  |        |        |                     |                 | 評価<br>(《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成) | 対応する予算事業  |  |
|----------------------|--------------------------------|-----------------------|------------------|--------|--------|---------------------|-----------------|--------------------------------|---|--|
|                      |                                | 具体的な振興施策              |                  |        | 指標     | 2017年度<br>(2016実績値) | 2027年度<br>(目標値) |                                |   | 2018年度<br>(平成30年度)                         |
| 自然と共存できる魅力ある農業・農村づくり | 5 地域資源を活用し地域が一体となった魅力ある農村環境づくり | 施策15<br>都市住民と連携・交流の促進 | ①都市住民と連携・交流の促進   | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《○》<br>JA伊勢と連携し、市民農園の利用者の募集および啓発の促進を図った。<br>また、特産品の促進を通じて、生産者と消費者の連携・交流の場づくりを行った。   | 農業体験学習事業                                   |
|                      |                                |                       | ②観光施策との連携を推進     | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《○》<br>観光施策との連携により、英国のアーティストに対して、伊勢の特産品のPRを行った。   | —  |
|                      |                                | 施策16<br>農村空間の総合的な整備促進 | ①農道・集落道路の維持・保全   | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《○》<br>地元の要望書に基づき、整備を推進した。<br>また、定期的なパトロールにより施設の保全に努めた。   | 農道整備事業【市単】<br>農道整備事業                       |
|                      |                                |                       | ②排水施設の維持・保全      | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《○》<br>地元の要望書に基づき、整備を推進した。<br>また、定期的なパトロールにより施設の保全に努めた。   | 農業用排水路整備事業【市単】                             |
|                      |                                |                       | ③農村の保全・防災対策を推進   | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《○》<br>船倉排水機場の長寿命化に着手し、他の排水機場については適正化事業を推進した。<br>農業用ため池については、防災重点ため池である笹原池の改修工事に向けて実施計画書を作成した。また県営事業にて東池の堤体改修工事に着手した。                         | 農村地域防災減災事業<br>排水機維持管理経費<br>排水機維持管理経費（機能更新） |
|                      |                                | 施策17<br>森林の保全と育成      | ①森林機能の増進などを支援    | 森林の間伐率 | 26.90% | 28.00%              | 29.76%          | 30.71%                         | 《○》<br>環境保全林の定期的な間伐を実施した。<br>また、伊勢市公共建築物等木材利用方針を見直し再度関係部署に周知するとともに、ホームページに県産材の木材利用実績と合わせて掲載し、市民に木材利用促進のPRを図った。                                | 環境保全林整備事業<br>森林整備事業（農林水産課）                 |
|                      |                                |                       | ②暮らしを守る森林づくりを推進  | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《○》<br>防風保安林である松林の害虫防除や下草刈りを行い計画的な保全を図った。<br>また音無山法面の倒木等の危険木撤去を適切に行った。  | 森林病害虫防除事業<br>森林整備事業（農林水産課）                 |
|                      |                                |                       | ③市民との共生の森林づくりを推進 | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《△》<br>交流施設として整備した横輪町「郷の恵風輪」を核とした宮山を活かし、市と地元が連携し、桜まつり、ホテル鑑賞会などの自然鑑賞会を行った。また絆の森は環境フェアにおいて森林学習を実施した。しかし他施設（三郷山、音無山）については市民参画によるイベント等の実施に至らなかった。 | 環境保全林管理経費                                  |
|                      |                                |                       | ④里地里山の保全・活用を支援   | —      | —      | —                   | —               | —                              | 《○》<br>地元組織による里地を活用した活動への支援を行った。  | 多面的機能支払交付金事業                               |